

平成30年6月4日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26381052

研究課題名(和文) コメニウスにおけるPansophiaの理念に関する総合的研究

研究課題名(英文) A Study on the Pansophia in the Thought of J.A.Comenius

研究代表者

井ノ口 淳三 (INOKUCHI, JUNZO)

追手門学院大学・国際教養学部・教授

研究者番号：00106014

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)： チェコ、ドイツ、ポーランドなどヨーロッパ各地の図書館で文献調査を行い、『世界図絵』の異版本や『開かれた言語の扉の苗床』1773年版、『前庭』1658年版、『広間』1661年版等を閲覧した。以上の現地調査及び研究者との交流、文献の分析を通して得られた知見を『コメニウス「世界図絵」の異版本』としてまとめ、2016年12月に追手門学院大学出版会から刊行した。『世界図絵』については、従来未解明の課題が幾つも残されてきたが、本書ではその中で特に次の課題について考察した。たとえば、多言語版の意図と活用の方法、チェコ語版の出版が遅れた理由、短縮版が特にウィーンで多く出版された理由などである。

研究成果の概要(英文)： I have researched on many books written by J.A .Comenius at the libraries in Europe. And I published the book "A study of the revised edition of "Orbis sensualium pictus" in 2016. In this book I have studied about some subjects, for example the reason for publishing by the plural languages, or the reason why the version being cut by half of the book "Orbis sensualium pictus" had published in Vienna in the 18th century. I guess that they were made as the cheaper version of "Orbis sensualium pictus" for students of Latin school.

研究分野：教育学

キーワード：コメニウス 世界図絵 パンソフィア 教養教育

1. 研究開始当初の背景

報告者は、これまで一貫してコメニウス (J.A.Comenius, 1592 ~ 1670) の教育思想に関する研究を継続してきた。特に『世界図絵』 (*Orbis sensualium pictus*) に焦点を定め、その異版本の調査・分析を通してそれらが出版された時代における政治・経済・社会・科学・技術・文化等の動向が著作の内容に反映されていることを指摘した (『コメニウス教育学の研究』1988年)。そして、『世界図絵』の最初の日本語訳に取り組んだ17世紀の薩摩の漂流青年ゴンザの研究を通して、彼が底本として用いた『世界図絵』が1662年にニュルンベルクで刊行された可能性を指摘した。

この他、初版本の約半数の82章しかない「短縮版」の編集理由について考察した。また、『新・世界図絵』や『最新・世界図絵』の出版意図についての仮説も発表した。さらに、『世界図絵』の1658年初版の挿絵の一部が動くものであったことを確認し、教材の歴史の上でも画期的なものであることを明らかにした。

以上の個別的な研究を積み重ねてきたが、その過程で次の新たな関心と疑問が生じた。

- 1) 『世界図絵』に記載されている内容は、コメニウスの Pansophia の理念をどのような形で反映したものと言えるのか。「あらゆること」の一端と理解して良いのか。
- 2) Pansophia の理念と百科全書思想の共通点と相違点はどこにあるのか。
- 3) Pansophia と教授学との相互浸透関係は、具体的にどのような形でなされているのか。
- 4) Pansophia は、「汎知学」、「汎知」、「普遍的知恵」、「パンソフィア」など様々な表現されてきたが、適切な訳語は何か、などである。

これまでの研究では鈴木秀勇と堀内守が、Pansophia と教授学との相互浸透関係を主張してきたが、堀内の示した「汎知の見取り図」とは、コメニウスの初期の教科書である『開かれた言語の扉』の目次を紹介したものであり、晩年の Pansophia の理念とは異なるのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、コメニウスの晩年の大作『人間に関わる事柄の改善に関する総審議』 (*De rerum humanarum emendatione consultatio catholica*) において全面的に提起された Pansophia の理念について、コメニウスの他の著作との関係を分析することを通して、これまで重要とされながらも必ずしも明確ではなかった Pansophia の理念の内容を解明することである。Pansophia と百科全書の区別や、「あらゆること」との関係などをどのように理解するのか、教授学との相互浸透関係は具体的にどのようなになっているのか等について総合的に研究する。

3. 研究の方法

次の方法によって進めた。

- (1) Pansophia の理念に関係する文献を調査・閲覧・収集した。
- (2) それぞれの文献について、内容をはじめ、執筆の経緯と背景等を比較・分析した。
- (3) ドイツ、チェコなどの研究者を訪問し、研究討議を行った。
- (4) コメニウスにゆかりのある土地を訪ね、著作の執筆された背景について考察した。

4. 研究成果

チェコ、スロヴァキア、ドイツ、イギリス、ロシア、ポーランドなどヨーロッパ各地の図書館で文献調査を行った。とりわけ2016年2月に訪問したブシェロフのコメニウス博物館では、『世界図絵』の異版本をはじめ『開かれた言語の扉の苗床』 (*Janua lingvarum reserata seminarium*) 1773年版、『前庭』 (*Vestibulum*) 1658年版、『広間』 (*Atrium*) 1661年版など、コメニウスの教科書の発展過程のわかる貴重な文献を閲覧することができた。助成期間中に訪ねた主な図書館は、チェコではオロモウツのパラツキー、ドイツのチュービンゲン、シュトゥットガルト、ウルム、ポーランドではワルシャワ、ヴロツワフ、クラクフのヤギェウォなどの各大学図書館、チェコ、ドイツ、ロシアの各国立図書館、プラハのコメニウス教育図書館、ベルリン教育史図書館、ロシア科学アカデミー附属図書館、サンクトペテルブルクの東洋学研究所などである。

また、チェコのコムニャー、ニヴニツェ、ウヘルスキープロト、ブシェロフ、ブランデーシュ・ナド・オルリツィー、ホルニー・ブラーナ、レドニツェ、ポーランドのエルブロング、レシュノ、トゥルーン、ブジェグ、ズゴシュレツ、スロヴァキアのスカリツァ、ハンガリーのサーロシュパタクなどコメニウスが滞在していた土地も訪ねた。それらの場所には彼の住居跡も残されていたり、周辺の景観も当時の風景が保たれていたりしており、伝記に記された行間を読み込む上で、大変有益であった。たとえば、コメニウスは亡命後には再び祖国へ戻ることはなかったと思われがちだが、スロヴァキアのスカリツァには彼が1650年に一時滞在した家が今も残されている。

この他チェコのハラデッツ・クラーロヴェー、ポディヴィーン、ロシツェ、ジーチャニー、ホジツェ、イーチン、ポリチカ、テルチ、クラリツェ、リトミシュル、クロムネジーシュ、スロヴァキアのトルナヴァなどでコメニウスのモニュメントを確認した。

以上の現地調査とプラハやオロモウツでの研究者との交流、文献の分析を通して得られた知見を『コメニウス「世界図絵」の異版本』としてまとめ、2016年12月に追手門学院大学出版会から刊行した。『世界図絵』に

については、従来未解明の課題が幾つも残されてきたが、本書ではその中で特に次の課題について考察した成果についてまとめている。たとえば、多言語版の意図と活用の方法、チェコ語版の出版が遅れた理由、短縮版が特にウィーンで多く出版された理由などである。

『世界図絵』は従来「世界最初の挿絵入り教科書」として知られてきたが、そればかりではなく、実は「世界最初のさわって動かせることのできる教材」でもあることを本書において明確に指摘した。このことは教育方法史の上でも重要な成果であると考えられるが、2017年5月に放映されたNHKのテレビ番組「探検バクモン」でも模型を使用して一般の視聴者にもわかりやすく解説した。なお本書は、日本教育学会、教育思想史学会、教育哲学会の各紀要の書評欄で取り上げられ、いずれも好意的な評価を受けている。そして日本教育方法学会の紀要でも書評が掲載されることになっている。

また、「コメニウス研究50年の到達点と今後の課題」、「チェコにおけるコメニウス教育博物館」、「ヨーロッパのコメニウス関係博物館」などの論文をまとめ、コメニウス研究の成果を確認すると共に、コメニウスゆかりの土地を訪ねる活動の意義について論じた。

研究成果を海外に発信することを重視してきたが、2014年6月にロンドン大学で開催された第36回国際教育史学会((36th International Standing Conference for the History of Education))に参加し、発表した。およそ600人の発表申込者の中から選ばれた約500人が、4日間にわたり発表し、研究討議を行った。統一テーマは、Education, War & Peaceである。これは、2014年が第一次世界大戦の開戦後100年にあたることから、再び戦争を起こさないようにするという強い決意のもとに定められたものである。報告者も War and peace in textbooks of J.A.Comenius (コメニウスの教科書における戦争と平和)と題する発表を行った。国際平和の構想を提起し、その実現のために活動したコメニウスの教科書の中に意外にも「戦争」に関する詳しい説明が見られることについて考察したものである。この学会では初めてコメニウス関係の分科会が設けられた。チェコやドイツ以外の国々でも若いコメニウス研究者が着実に育ってきていることを実感した。彼らを含めていろいろな国からの参加者と研究情報の交換ができて、とても有意義であった。

この他2015年6月にサンクトペテルブルグで行われたコメニウス研究国際学会や、同年9月にブダペストで開催された世界教育学会の大会に参加し、ロシア、ポーランド、ドイツ、チェコなどの研究者と研究討議を行った。

さらに、コメニウスの Pansophia の理念の研究とかかわって「教養教育」についての考

察を行い、「大学における教養教育とコメニウスの Pansophia の理念」や「教師教育と教養教育」「コメニウスの『パンパイディア』における老年期の課題について」などの論文を発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

井ノ口淳三、ヨーロッパのコメニウス関係博物館、追手門学院大学 Musa 博物館学芸員課程年報、査読無、第32号、2018、1 - 5

井ノ口淳三、コメニウス研究50年の到達点と今後の課題、追手門学院大学教職課程年報、査読無、第25号、2017、45 - 50

井ノ口淳三、チェコにおけるコメニウス教育博物館、追手門学院大学 Musa 博物館学芸員課程年報、査読無、第31号、2017、19 - 23

井ノ口淳三、いじめ問題とどう向き合ってきたか、日本教育方法学会紀要、査読有、第42号、2017、65

井ノ口淳三、コメニウスの『パンパイディア』における老年期の課題について、追手門学院大学教職課程年報、査読無、第24号、2016、39 - 44

井ノ口淳三、プラハのおもちゃ博物館と国立技術博物館、追手門学院大学 Musa 博物館学芸員課程年報、査読無、第30号、2016、31 - 34

井ノ口淳三、子どもが楽しむフランクフルトの博物館、追手門学院大学 Musa 博物館学芸員課程年報、査読無、第29号、2015、19 - 23

井ノ口淳三、「特別の教科 道徳」をめぐる議論の検討、追手門学院大学教職課程年報、査読無、第23号、2015、57 - 62

井ノ口淳三、大学における教養教育とコメニウスの Pansophia の理念、教育史学会紀要 日本の教育史学、査読有、57号、2014年、118 - 122

[学会発表](計 3 件)

井ノ口淳三、大学における教養教育の必要性と可能性、総合人間学会関西談話会、2017年12月23日、京都市左京区総合庁舎

井ノ口淳三、生涯にわたる教育の構想 コメニウス『パンパイディア』の翻訳出版によせて、総合人間学会関西談話会、2015年11月28日、京都産業大学むすびわざ館 Junzo INOKUCHI, War and peace in textbooks of J.A.Comenius, 36th International for the History of Education, 2014年6月26日、ロンドン大学

〔図書〕(計 3 件)

井ノ口淳三、教師教育と教養教育、日本教師教育学会編、教師教育研究ハンドブック、学文社、2017、178 - 181

井ノ口淳三、コメニウス「世界図絵」の異版本、追手門学院大学出版会、2016、166

井ノ口淳三、外国における教育方法の思想史、日本教育方法学会編、教育方法学研究ハンドブック、学文社、2014、122 - 125

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井ノ口淳三 (INOKUCHI, Junzo)
追手門学院大学 国際教養学部・教授
研究者番号：00106014

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：

(4) 研究協力者

なし ()

なし